

デザ研に新たな風 — 窪田先生・新M1 8名来る —

桜吹雪舞う4月上旬、研究室に新たな顔ぶれが加わりました。
早速みなさんのプロフィールや意気込みをご紹介します。

text _ yahara



准教授
窪田亜矢先生

1. 今までの経歴

修士卒業からですと、(株)アルテップにて都市計画・都市デザインに従事2年間→思うところあって博士課程に戻り(途中、コロンビア大学留学、ニューヨーク暮らしを満喫)→工学院大学建築都市デザイン学科で自分の研究室を立ち上げて6年間→今日に至ります。もう少し加えますと、そもそも公害研究がしたくて都市工学科を志望していましたが、何を間違ったか、運動会女子庭球部に入部。言わずがなの日々を送り、4年夏の最後の個人戦で敗れてから、院試の猛勉強→無謀な卒業設計→調査三昧の院生活へと続きます。

2. 趣味・特技

おなかを空かせた子どもたちに、とりあえず出せるものから、という居酒屋状態で、うちのごはんは進みます。その準備はそれなりに素早い。

3. 好きなまち

何らか関わったまちはどうにも好きになることがほとんどです。それでもっと関わろうかと思ひ、もっと好きになる、、、この10年ほど住んでいる湯島・上野界隈も好きです。

4. 抱負

次の5年で自分の都市哲学を確立したい。

5. 研究室へのメッセージ

2階の私の部屋にも立ち寄ってくださいね。

新M1 Q&A

1. 出身
2. 趣味・特技
3. 好きなまち / 行ってみたい場所とその理由
4. 座右の銘・モットー
5. 都市工・デザ研に来たきっかけ
6. 大学院生活に向けた意気込み

竹本千里

1. 大阪、智辯和歌山出身
2. カメラ、マラソン、音楽(バンドとか)
3. 文京区、松ノ浜 / マチュピチュ、コペンハーゲン、カップドキア
4. なせば(なんとか)なる
5. 縁というのでしょうか。それとも成り行きと言うのでしょうか。
6. 精進します!

西川亮

1. 東京・町田市
2. 写真・カメラ、読書(今年から)、美味しいエスプレッソを入れることが出来る
3. 横浜の大栈橋、カナダ・バンフ / 岐阜県白川郷・世界遺産の実態、本当に価値は失われたの?
4. 妥協しない(けど妥協も大切)
5. 「世界遺産追究」?
6. 全力の2年間! 趣味も、恋も研究も

菊地原徹郎

1. 山梨、慶應義塾大学環境情報学部
2. どこでも寝れる、タッチタイピング
3. 長崎、神戸、横浜のような港+急峻な地形がある場所
4. 何事にも「+α」の心構え
5. 同じような興味・試行を持った人と沢山出会えると考えたから
6. 1日1日を無駄にしない+朝早く起きる

土信田浩之

1. 茨城県、東京理科大学工学部
2. 町歩き、弓道
3. 川越、上野 / 伊勢神宮: 一生に一度は行ってみたい
4. 人の至る所に青山あり
5. 様々なプロジェクトに接する機会が多そうだから
6. たくさんのことにチャレンジしていきたい

藤井高広

1. 島根県出雲市、芝浦工業大学工学部建築工学科
2. 部屋の掃除(自分の部屋のみ!)、バイク
3. 地元: 自然と歴史と友達か... / 未来の理想都市
4. 人事を尽くして天命を待つ
5. 本当に住みよいまちとは何か知りたかったから。
6. みんなの3倍頑張ってください。楽しむ。

柴山浩紀

1. デザ研
2. 写真、読書
3. 北京(オリンピック)
4. なすがまま
5. エスカレーター
6. 休みます

中島和也

1. 熊本、デザ研
2. ラーメン(今年から)
3. 岡山県総社市(本籍地)
4. 脱力
5. 本当は何がしたいのか分からんから
6. 集中したい

六田康裕

1. 京都、東大農学部、洛南高校
2. セイリング、水をつまみに焼酎を呑む事
3. 船の上から眺める江ノ島(見た目)、赤羽(駅前の雑然としていて、でも元気な感じ)
4. ゆっくり急げ。敵は友よりそばに置け。
5. 思いを形に出来る人たちに憧れて。
6. とりあえず奨学金でパソコン買います。

卒業生15名、デザ研を巣立つ 笑いあり、涙ありの祝福 一追出しコンバー



▲卒業生と先生方。胸に両教授を携えた"勝負Tシャツ"を贈呈。

M2 パンノイ・ナッタボン

3月24日に大勢の研究員のメンバーが集まり、2007年度の卒業生を盛大に祝いました。パーティでは、工学系研究科長賞(社会貢献部門)・新領域研究科長賞(地域貢献部門)を受賞した学生の表彰式や思い出映像の上映などが行われ、笑いあり涙あり、祝福する人もされる人も感動した会になりました。



◀今年始めにご結婚した中島さんへ皆からサプライズムービー。喜びながらも涙は見せないことになっています。」と話す中島助教。



▲新領域研究科長受賞受賞の卒業生: 空間研砂川と、平林(左)。工学系研究科長賞受賞の矢原(右)。

デザ研ドクター5名、イギリス学会で堂々発表

D1 南知賢



3月18日から20日までQueen's Universityにて開かれた「UK-Ireland Planning Research Conference」に私を含め、馬場美彦（D3）、江口久美（D2）、楊恵亘（D2）、鄭一止（D1）4人で参加してきました。今回の学会はこの発表者たちにとってかなり記念になります。つまり、馬場さんを除いたメンバーたちの場合、外国の学会での初デビューであったことだし、それに関わらずみんな冷静沈着に発表を行い、余裕のある姿を見せてくれたということです。その発表タイトルは次のようです。

馬場美彦「Community Oriented Planning - Instigation for inclusion and sustainability initiatives?」、
江口久美「A Historical Study on Prosperity in Ueno」、

楊恵亘「The sustainability if the city that tries to let sightseeing and daily life consistently by using feedback machizukuri measure」、
鄭一止「A study on the Activities of Resident Organizations on Historic Townscape Conservation in Bukchon Area in Seoul, Korea」、
南知賢「A study on the design patterns of multi-dimensional pedestrian network shown on the transit Oriented Development in Japan」。

今学会の主題は、Sustainability、Space・and・Social・Justiceであり、3日間行われ、毎朝には4つの公開セミナーもありました。短い時間ではありましたが、多くの植民国家を支配したイギリスらしく、国内の多様な人種と文化、そして世界的な普遍論まで含む多様な見解や体系的な制度に関して、聞ける良い機会でした。特に、Julian・Agyeman教授が言及した社会的な正義や環境的な恵みの再分配というキーワードは、貧富の格差が徐々に拡大している資本主義社会の中、都市政策はどのように進めるべきであるのかに対し、自分自身に大きい刺激を与えました。また、セミナー後の

深度ある質問と返事によっていた熱情的な姿や、詳細分野は違うものの普遍的な正義を巡りつつ、議論をしていた議論者たちの姿に、再び感動を受けました。

実際発表においては、数十人の参加者の中アジア人はただ何人だけで、またそのほとんどが内の研究室のメンバーであったため、発表の負担はかなり重いものでした。しかし、言語というのは、発音やイントネーションより発音者が伝えようとする内容がより重要であるようです。ネイティブたちの中で震えずに落ち着き、準備した内容をちゃんと伝え、又その研究内容に関して客観的で真剣にお互いの意見や見解を言う研究者としての望ましい姿勢を学んだ印象的な学会でした。

さらに、世界の所々で各々関連分野の研究をしている同志と会い、自分の関心分野に関して話を交わすことによって、情報交流のみならず、その分野における研究価値や他研究者との差別性を考える契機になりました。このような交流を通じてのシナジー効果を探す方法も考えるようになりました。最後に、学会後ロンドンでみんなと一緒にいった、馬場さんの妹の運営している日本料理屋で受けた暖かい歓待と立派な食べ物は今までも忘れることができません。

1席に入選 鞆PJ、広域観光論文

遅ればせながら、鞆PJの受賞に関してご紹介します。紙面での取り扱いが遅くなり申し訳ありません。

D2 鈴木智香子

昨年、財団法人アジア太平洋観光交流センターが募集する「第13回観光に関する研究論文」に、鞆PJメンバーで論文「北前船をテーマとした広域観光に関する基礎的検討—北前船関連観光資源の全国調査を中心として—」を応募しました。内容は、北前船に着目し、その広域観光のテーマとしての可能性の検討、提案のための基礎作業として、北前船寄港地における近年の北前船に関する観光施策の全国的動向および先進地の特徴を明らかにするというものです。北前船寄港地を有する全国の138自治体に実施したアンケート調査（回収率89.9%）を中心に研究を進めました。

審査結果は、大変喜ばしいことに、「一等」。昨年12月に、表彰式に出席してきました。



◀受賞の様子。鈴木（前列中央）、山田、北村、江口（後列左3人目から）

<審査委員長のお言葉（HPより一部抜粋）>
一席に選ばれた鈴木（ほか計7名）論文は、「広域観光」をキーワードにして、既存行政区域に縛られがちな日本の観光行政に新たな風を吹き込もうとする問題意識に満ちたものである。江戸時代から明治中期まで活躍した広域商船というべき北前船に注目し、とくにその寄港地が日本各地にまたがることから、広域観光のための観光資源と位置づけた発想は秀逸だった。もっとも北前船関連の「観光資源」調査は周到であったが、主として関係自治体へのアンケート調査であり、電話によるインタビューで補完されてはいるものの、いわば臨場感に乏しい分析との印象は否めない。論文末の提言部分も特段の強固な論理と主張が見られないところから一席に推すことに不安感が残ったが、全国調査による「基礎的検討」という位置づけをもとに着実な手法から観光の現状に問題提起する堅実さが評価され最終的に全員一致で一席に決まった。

審査委員長の白幡洋三郎先生をはじめ、審査委員の先生方からは、以下の点を評価していただきました。

- ・既存行政区域に縛られがちな日本の観光行政に新たな風を吹き込もうとする問題意識。
- ・北前船を広域観光のための資源と位置づけた発想。
- ・全国調査による「基礎的検討」という位置づけをもとに着実な手法から観光の現状に問題提起する堅実さ。

UDCY、発足

M2 山田浩



この度、昨年行われたUDSYの内容をまとめた「未来社会の設計～横浜の環境空間を考える～」が出版された（定価1260円）。また、このUDSYでの活動・人脈を基に、この春、新たにUDCY（Urban Design Study YOKOHAMA）が設立された。UDCYは北沢猛教授をセンター長とし、「大学、自治体、企業、NPOから、多様な専門性を持つ人が集まり連携して、環境と空間を構想する日本初のネットワーク型シンクタンク」である。横浜BankART1929において開かれた出版・設立記念パーティーには中田市長も駆けつけるなど、今後の横浜のまちづくりにおいてUDCYに寄せる期待の高さを表した。M2山田も引き続きUDCYに関わる予定であり、UDCYの展開にも是非ご期待いただきたい。

編集後記

text_yahara

編集委員2年目にして初編集です。文字の大きさやデザインを変えてみましたがいかがでしたか？本号で扱った新M1の志を見て、1年前の自分を振り返ると共に残り1年の時間の重みを感じました。今年度は教授2名、准教授1名、助教2名と一層強力な体制となり、研究室の更なる活躍が楽しみです。今後も多くの活動を報告していきますので、都市デザイン研マガジンのご愛読、よろしくお願いいたします。



◀ 2007年度マガジン編集部
塩澤さん、石井さん、お疲れ様でした！2人にはマガジン全号の入ったファイルを贈りました。